

自立活動だより

No 6

文責：自立活動支援センター
広報係

令和6年11月発行

季節は秋から冬へと変わりつつあります。真夏に続き、補聴器や人工内耳にとっては、あまり良い季節とはいえません。温度差による結露や静電気に注意する必要があります。



寒いところから急に暖かいところへ出たり、その逆の場合も温度差によりチューブ内が結露する場合があります。その際は、チューブを外して、水滴をこよりなどで吸い取ってください。また、静電気が溜まった状態で、人工内耳に触れるとプログラムが破壊され、医療機関でマッピングの直しになります。一度、体内の静電気を逃がしてから触れると良いでしょう。



<作文指導から学ぶこと>

生徒会役員改選があり、Aさんが書記に立候補しました。立会演説会のあいさつを考えるにあたって、まずは「書記」の具体的な仕事を確実に理解するために、前任者から書記の仕事について詳しく教えてもらいました。教えてもらった後、教師と一緒に確認する時に忘れてたり分からなかったりする内容やことばがあったので、前任者からもう一度教えてもらいました。教師から説明をした方が早いかもしれませんが、しかし、それだとほぼ「受け身」となり、先程の生徒同士の対話の内容が消えてしまいます。また、前任者も再度聞かれたことを通して、相手に分かるように伝えるということを学ぶ機会となりました。



そして、Aさんは前任者から教えてもらった仕事の内容を理解し、書記に当選したら頑張りたいことや生徒会役員と一緒に取り組むことを、やりとりを通してまとめ、書き上げることができました。150字のあいさつの文を考えるにあたって、1時間かかりました。150字が長いかわかりませんが、短いかわかりません。あいさつの文を書き終えた後、発表の練習をする時、手話の表現が自分で考えたこと、伝えたいことの意味に応じた手話の表現をしていました。(多少の指導はしましたが)。Aさんが、やりとりを通して考えて書き上げた文なので、自分が持っている手話やことばに応じた表現ができたのだと思います。「文を書く目的を理解し、対話を通して、一緒に文を書き上げていく」という積み重ねは、将来、自分の思いや考えを文章に表現することにつながると思います。」

(S. I)

<小学部の自立活動>

小学部では、上・中・下学年に分かれ、月、水、金の週3日グループでの自立活動を15分ずつの学習と週1コマの授業を行っています。1学級の人数が少なくなっている中、集団でのコミュニケーションは大切な学習場面になっています。写真は高学年のグループ自立の様子です。学習発表会で、それぞれが立てた目標は達成できたかや劇の発表についての感想などを発表し合っています。



<お知らせ>

本校では、必要に応じて補聴器販売店の認定補聴器技能者の方に来校いただき、補聴器のメンテナンスやイヤモールドの耳型取りなどを行っていただいておりますが、今後、「ブルーム郡山」の来校日が一部変更になります。

木曜日：「ブルーム郡山」 → 第2.4木曜日

金曜日：「みみプラザ郡山」 → 変更なし

時間は今まで通り、昼休みです。依頼がある場合は、これまで同様に 2日前までに係へご連絡ください。またお急ぎの場合は、直接店舗へお願いします。



<聴覚言語音声障害情報交換会から>

「セルフアドボカシー」と言う言葉をご存じでしょうか。「**障害のある当事者が必要なサポートを獲得するために自分で声を上げて周囲と交渉、同意に至る**」こととされています。

中川尚志先生（九州大学大学院医学研究院）の「聴覚障害者の社会参加を促進するための手法に関する研究」で詳しく紹介されています。またその中でチェックリストも紹介されていますので、一部ご紹介します。ご家庭や授業（主に自立活動）の中でも活用できるのではないかと思います。

（一部抜粋）

項目		内容	
1	<耳・聞こえ> 耳の役割	1	顔の基本的な部位の名称(目、鼻、口、耳など)を言うことができる。
		2	耳の機能について理解し、言うことができる(例:「耳はきくところ」など)
2	聞こえの仕組み	1	耳の器官の名称(鼓膜、耳小骨、蝸牛など)が言える。
		2	音が聞こえる大まかな仕組みについて説明することができる。
		3	耳の器官のそれぞれの役割について説明することができる。
6	自分のオーディオグラムの理解と活用	1	自分のオーディオグラムを興味を持って見ようとする。
		2	オーディオグラムの見方が分かる。
		3	オーディオグラムをもとにして自分の聞こえに説明することができる。
1	<補聴器> 動作の確認	1	補聴機器(補聴器・人工内耳)のオン・オフがわかる。
		2	補聴機器が作動しなくなったときに気がつき、知らせることができる。
		3	補聴機器の不具合に気づき、報告することができる(音がしない・雑音がする・いつもより音が小さいなど)。
1	<専門家> 専門家へのアクセス	1	難聴に関わる専門家の種類について知っている(耳鼻科医、教師など)。
		2	難聴に関わる専門家に何を相談すれば良いか・どこに行けば相談できるかを説明することができる。
		3	専門家を探すための手段について知り、必要に応じて活用することができる(インターネットを活用する、紹介状を書いてもらうなど)。
2	<福祉制度> 福祉制度の理解と活用	1	平均聴力レベルと手帳の等級の関係について知り、自分の等級を知って活用できる福祉制度を確かめる。
		2	自分が活用できる福祉制度について、身近な大人の支援を受けながら自分で調べることができる。
		3	自分が活用できる福祉制度について調べ、必要に応じて活用することができる。

(保護者で必要な方は、担任に依頼してください。)

(H.K)